

ヴァレージョ (Valeggio Sul Mincio) +ボルゲット (Borghetto)

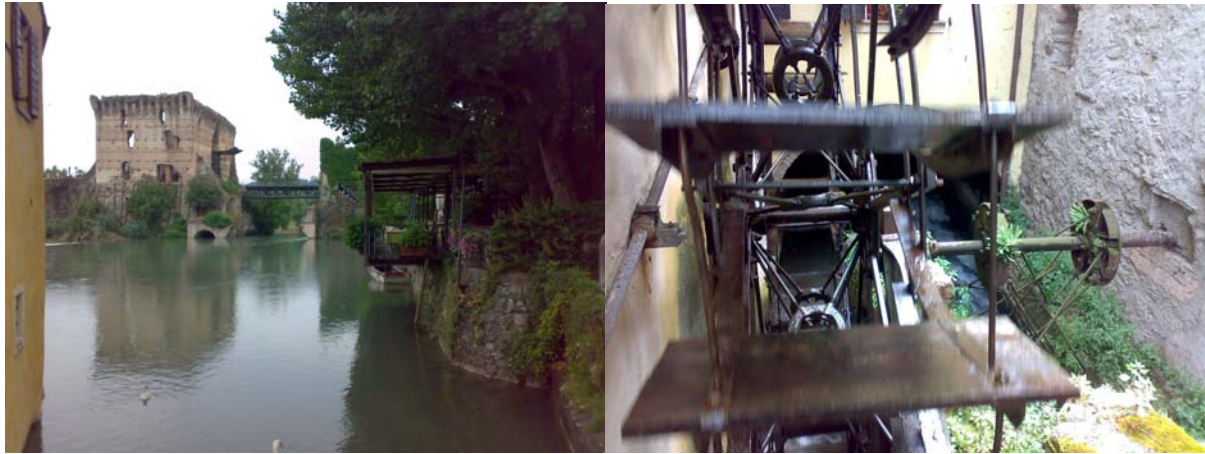
今週は、久しぶりに「最も美しい村」へ行ってきました。ボルゲットが「最も美しい村」及び「小さな村・街」の両方に推薦されている村です。ヴァレージョはボルゲット村をその中に含む人口 14000 人のコムーネです。名前のとおり、ミンチョ川の畔にあるボルゲットは、正にミンチョ川の上 (Sul Mincio) に浮かんだ箱庭のような美しい村です。また、ヴァレージョの街は、手作りのトルテッリーニが特に有名です。結ばれることのない恋人たちがミンチョ川に身を投げる前に絹のハンカチを硬く結び付けたときの結び目に似ていることから、この街のトルテッリーニは“Nod D'amore” (愛の結び目) と呼ばれています。レストランのメニューにもトルテッリーニではなく、“Nod D'amore” と書いてあります。それに、ボルゲットの川沿いには、恋人たちが残していった、“決して別れることはない”ことを表す“がっちり閉じられた鍵”がいっぱいあります。ロマンチックな村なのです。

ヴァレージョとボルゲットは、青銅器時代からその存在が確認されていますが、実際に歴史に出てきたのはロンバルド王国時代 (8-9 世紀) になります。ヴァレージョはロンバルド語で“平坦な地”、ボルゲットは“要塞移住地”を意味しています。ガルダ湖の南に位置するこのミンチョ川沿いの平坦な沼地は、ロンバルディア地方を東西に苦勞することなく通過できる地域であり、中世以前の時代から、この地を確保することが戦略上非常に重要だったようです。即ち、8,9 世紀の時代から近代に至るまで争いの絶えない地域だったのです。ゴンザーガ家、スカリジェリ (スカラ) 家、ヴィスコンティ家等のロンバルディ領主たち、ヴェネツィア、オーストリア、フランス等が、この地をめぐる絶え間なく争っていた記録が残っています。13-14 世紀に、この地にとって重要な 2 つの中世の要塞が建てられました。スカリジェリ城とヴィスコンティ橋要塞です。当時のロンバルディ領主 (スカリジェリ家とヴィスコンティ家) が、ヴェネツィアとの戦いのために建てた要塞です。天然の要塞であるミンチョ川とこれらの要塞で、この沼地を越えて攻めて来るヴェネツィアの侵略を、なんとか食い止めるようとしたのでしょう。但し、実際にこの地域は、15 世紀初めから 18 世紀の終わりまでヴェネツィア共和国に支配されていたので、ロンバルディ領主の思い通りには行かなかったようです。ヴェネツィアの支配の後、19 世紀からは、周辺地域と同様にフランス・オーストリア支配を経て、最終的にイタリア共和国に属すようになりました。今もこの地がヴェネト州に属しているのは、ヴェネツィア支配が長く続いた当時の名残なのです。

まず、ボルゲット村を歩きました。本当に、ディズニーランドのように可愛らしくてきれいな村で、「最も美しい村」に推薦されるのにふさわしい村です。



とても小さいこの村は通り抜けるのに4, 5分で十分です。但し、その中にはカフェ、レストランと土産物やが並んでいます。それらの店は、水面すれすれに建てられていますので、まるでミンチョ川に浮かんでいる船のように見えるのですが、実際には川の中州に建てられています。全ての建物はきれいな花で飾られていて、村全体がまるで映画のセットのようです。



村を一回りした後に、村からも良く見えるヴィスコンティ橋要塞に向かいました。ヴィスコンティ橋は、ミンチョ川とその畔の沼地を跨ぐように建造されています。要塞の両端の門と両側の城壁は今でも残っていて、当時の要塞の面影を感じとることが出来ます。但し、両側の城壁上部は壊されているので、要塞跡と言った方が良くかもしれません。城壁はヴェネツィア侵略の時に破壊されたのでしょう。ヴィスコンティ橋要塞の、ちょうど延長線上の丘の上にスカリジェリ城が見えます。スカリジェ

リ城とヴィスコンティ橋要塞を一直線上に並べたことは、きっと戦略的な意味があったのでしょう。でも、今では、この景観を更に美しくしていることに貢献しているだけです。



村に戻り、いよいよ昼食です。勿論、この日の目当てはトルテッリーニです。こんな小さな村なのにレストランとカフェはたくさんあります。その中からリーズナブルな価格で上品なレストランを選んで入り、早速、“Nod D’amore”を注文しました。“Nod D’amore”には2種類あって、一つは溶かしバターをかけたもの、もう一つはスープに入ったもの“Nod D’amore in Brodo”（本来、この料理はクリスマスに食べるようです）です。両方ともすごく美味しく非常に満足しました。トルテッリが餃子なら、トルテッリーニはワンタンです。ですから、“Nod D’amore in Brodo”の外観はワンタンスープのようなものです。勿論、味はだいぶ違います。あっさりしたスープの中にあるトルテッリーニに包まれている具がその味を自己主張していて、全体の味を調和させています。この味は日本人好みで、本当にすごく美味しいと感じました。続いて、セコンディで注文したのは、なんと鰻です。このミンチョ川の鰻はトマトソースに良く合っていて、臭みも全くなく、これも最高でした。ついでながら、ワインもこの地のDOC白ワインで、Bianco di Custozaでした。これもまた最高でした。最高の昼食に満足した後に、腹ごなしに、丘の上に立つスカリジェリ城に行きました。この丘は、ボルゲット村とヴァレージョの街との中間に位置しています。従って、丘の上からは、ボルゲット村とヴァレージョの街並みの両方を見ることが出来ます。勿論、その周りの、なだらかなロンバルディ平野の丘陵地帯も素晴らしい景色です。それほど大きな城ではありませんが、丘の上にあり、しかも塔のように聳える城はなかなか立派で、遠くからでも目立ちますので、周囲を威圧するには十分だったのだと思います。この城は既に10世紀に建てられていたようで、スカリジェリ家が13,4世紀に建

て直したとのこと。また、この城には幽霊が出るとの言い伝えもあるそうです。



城から、今度はヴァレッジョの街方向に下りて行き、ヴァレッジョの街を散策しました。街の中心にある大きな広場に、この小さな街に相応しくない立派な市庁舎があります。その先に、これも、小さな街に相応しくない立派なドゥオモが、その存在を主張しているかのように見えています。このドゥオモの正面にはファサードがありません。正面のむき出しのレンガが、返って、重厚感を与えてくれます。ドゥオモ広場の一角に特に有名なトルテッリーニの店がありました。既に、ボルゲット村で自家製のトルテッリーニとトルテッリをたっぷり購入していたので、この店は覗いただけでしたが、ここで買うべきだったのかもしれませんが。ちょっと後悔しました。でも、ちなみに、ボルゲット村で購入したトルテッリーニとトルテッリは、十分に満足できるほど美味しいものでした。



行きは、ミラノ中央駅からペスキエーラ・デル・ガルダ駅まで普通列車（7.8ユーロ）で、そこからバスでヴァレージョまで行くつもりでしたが、到着（10時）してからバスの時間まで1時間以上もあり、しかも、この日は、午後から雨が降るとの予報でしたので、時間節約のためにタクシーで行ってしまいました。タクシーは約15分で料金は20ユーロ強です。

天気は、午後2時くらいまでは我慢してくれたのですが、2時にぽつぽつと降り出した雨は、急に本格的な降りになり、3時からバスに乗る時間までは、大雨のヴァレージョの街を歩くことになってしまいました。帰りは、ペスキエーラ行きのバスは2時9分に1本あるだけで、その後は夕方6時過ぎになってしまいます。この時期、学校が休みに入ったことで、ちょうどこの時間帯の路線バスの本数が大幅に減っています。そこで、ペスキエーラに戻るのはあきらめて、バス停の時刻表を調べて3時40分のヴェローナ行きを利用することにしました。雨でも遅れずに到着したバスに乗り、ヴァレージョからヴェローナ駅前まで40分（4.45ユーロ）ほどで到着しました。ヴェローナからは普通列車に乗りペスキエーラを通過して、ミラノ中央駅には6時半に到着しました。

ヴェローナからペスキエーラまでの列車料金は2.35ユーロですから、帰りは、ヴァレージョからヴェローナ経由でペスキエーラまで、結局2人分の合計で13.6ユーロほどかかってしまいました。ですから、20ユーロかかったとしても、ヴァレージョからタクシーでペスキエーラに戻ったほうが時間の節約にもなり、（特に雨が本降りだったので）かなり楽だったと思います。但し、ヴァレージョの街ではタクシーを見かけませんでしたので、レストランやホテルで呼んでもらうしかなさそうです。このあたりのバスのチケットは、バスに乗ってから購入できます。